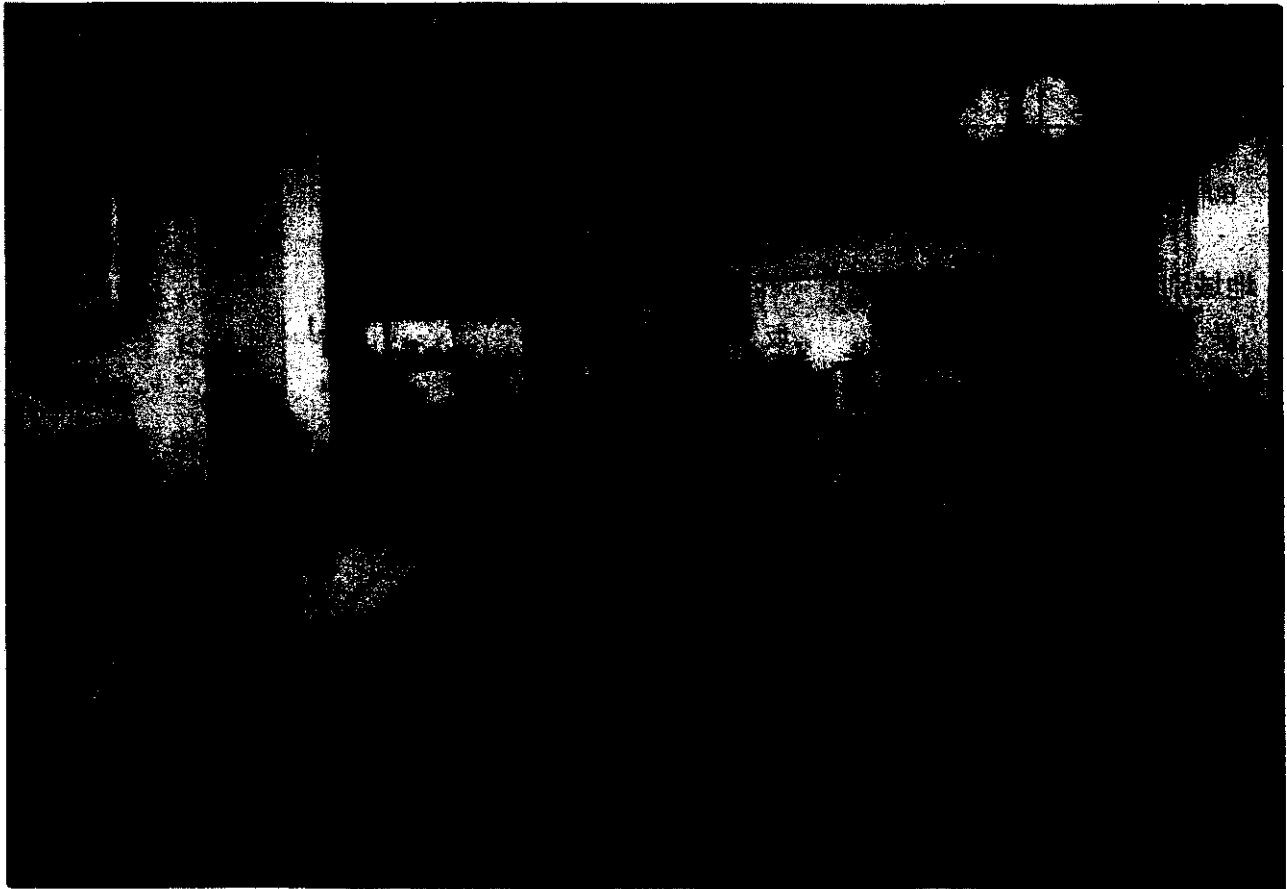




会報

平成15年12月 No.11

# 長野りんどう



## 目次

- 15年度上半期の利用状況(15年4月1日～9月30日まで) ..... 2
- 各施設の活動状況 ..... 5
- 特集・「県外先進施設研修」に参加して ..... 11
- トピック1・佐渡旅行 ..... 12
- トピック2・音楽グループ ..... 14
- 長野りんどう会後援会たより Vol.8 ..... 15
- ラ・サ・りんどうの活動状況 ..... 16

### <発行>

社会福祉法人 長野りんどう会  
ライフサポートりんどう  
発行責任者 宮尾 美代子

〒381-0041  
長野市大字徳間3222

Tel 026-239-7077

Fax 026-239-7070

E-mail: l.s.r@bg.wakwak.com

# 15年度上半期の利用状況（15年4月1日～9月30日まで）

## ◆ 生活訓練施設（援護寮） ◆

### 1) 入退所者状況

新規入所者	男性 4名	女性 1名
退所者	男性 3名	女性 1名（4名共同住居）
15年9月30日現在の入所者数	18名（男性12名・女性6名）	

### 2) 年齢別の状況

20才代	3名		
30才代	2名		
40才代	7名		
50才代	5名		
60才代	1名	平均年齢	45.05才

### 3) 地域別の状況

長野市	8名	坂城町	1名
飯山市	3名	千曲市	1名
山ノ内町	1名	鬼無里村	1名
牟礼村	1名	須坂市	1名
豊野町	1名		

### 4) 日中の活動状況

当法人通所授産施設通所者	男性 5名	女性 2名	計 7名
他の授産施設通所者	男性 1名		1名
デイケア利用者（クリニック）		女性 1名	1名
援護寮在寮者	男性 5名	女性 3名	8名
外勤者	男性 1名		1名

### 5) ショートステイ利用者

補助対象分		合計	
実人数	男性 9名	女性 3名	12名
延べ人数	男性 18名	女性 5名	23名
利用日数	118日		
補助対象外分			
実人数	男性 4名	女性 2名	6名
延べ人数	男性 7名	女性 2名	9名
利用日数	38日		

◆ 地域生活支援センター ◆

1) 登録者 75名 (15. 9. 30現在)

前年度よりの更新者 64名  
 15年度新規登録者 16名  
 15年度退所者 5名

	登録者
“地域のみ”	49名
援護寮	3名
通所授産施設	23名
計	75名

	登録者	
男性	54名	72%
女性	21名	28%
計	75名	

2) 年齢別

20才代 19名 (25.3%)  
 30才代 31名 (41.3%)  
 40才代 12名 (16.0%)

50才代 9名 (12.0%)  
 60才代 4名 (5.3%)

3) 地域別

市町村	登録者
長野市	57名
須坂市	2名
中野市	4名
飯山市	2名

千曲市	1名
牟礼村	3名
小川村	1名
信濃町	3名
豊野町	1名

4) 利用状況

開所日数 (4月~9月) 148日  
 交流室利用延べ人数 ( " ) 2,168人  
 \* 1日平均利用者 14.6人  
 電話相談 ( " ) 1,217件  
 来所相談 ( " ) 516件  
 訪問等 ( " ) 13件

## ◆ 通所授産施設 ◆

### 1) 入退所者状況

新規利用者 男性 4名 女性 1名  
 退所者 男性 2名 女性 1名  
 15年9月30日現在の利用者数 40名(男性30名・女性10名)

### 2) 年齢別の状況

20才代	8名		
30才代	11名		
40才代	16名		
50才代	3名		
60才代	2名	平均年齢	39.4才

### 3) 地域別の状況

長野市	26名
飯山市	2名
中野市	2名
豊野町	1名
牟礼村	2名
三水村	1名
山ノ内町	1名
豊田村	1名
須坂市	2名
千曲市	1名
鬼無里村	1名

### 4) 一人当たりの賃金状況

単位(円)(人)

	最低	最高	平均	受給人員
4月	494	17,768	5,612	31
5月	400	16,832	6,090	31
6月	380	14,745	5,309	32
特別	5	9,583	3,830	38
7月	65	20,041	6,209	35
8月	114	13,211	4,579	31
9月	294	10,643	3,548	30

### 5) 契約者数と通所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
契約者	39	39	40	38	41	40
通所者	31	31	33	31	33	32

# 各施設の活動状況

## ～生活訓練施設～

### 今年度活動状況

職員 藤井 一彦

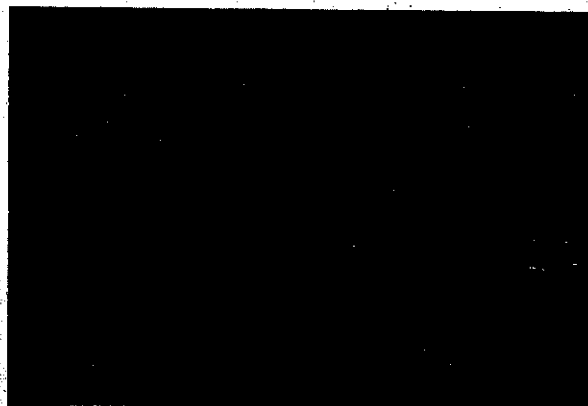
今年度、援護寮は施設長が替わり、また異動、新規採用等により、体制も新たにスタートした。年度初めである4月には、共同住居・上野の家の立ち上げと共に4人の利用者が退所された。旅立ちの春に幾分かの寂しさが残る中、援護寮の活動は始まった。春には昨年も利用者にも好評であった、いちご狩りに出掛け、皆思い思いに春の喜びを感じた。夏は佐渡旅行にバーベキューに花火大会と、短い信州の夏を満喫した。秋にはメゾン・ド・エスポワールとのソフトバレー大会で、清々しい汗をかいた。春に4人の利用者が退所し、ぽっかりと穴が開いた様に当初思えた援護寮も、ふと気付けば今日までに、新たな5人の利用者が入所された。時が経つのは早いもの……。

ここで、援護寮で今年度より行なっている行事活動を幾つか紹介したいと思う。先ずは「お菓子作り」。利用者の「お菓子作りたいね！」という声が始まりのキッカケであり、月に1回、利用者と職員と一緒にメニューを決めて作る。これまで「豆腐のレアチーズケーキ」や「三色ゼリー」といった一工夫されたお菓子を作っては、利用者、職員に好評を得ている。

「スポーツの日」は月に一度、運動不足解消になっているかは“？”だが水泳、ボーリング等レクリエーション的要素を忘れずに楽しく行なっている。

最後に、毎月第3土曜日に行なっている「家族の日」は、家族と職員との情報交換の場であり遠慮なく胸中を語って頂く場として、今後も大切にしていきたい活動の一つである。

時が経つのは早いもの…来年度に繋がる活動を心掛け、残りの日々を取り組んでいきたいと思う。



### 援護寮の行事に参加して

K・T

#### ☆マジックショー

3人の方が来てマジックを行なってくださいましたが、それぞれの方が個性を持っていて、大変見ごたえがありました。

#### ☆あんずの里 6月18日

○いちご狩り 生れて初めてのいちご狩りでしたが、天候も良くみんないちごをほうばっていました。「また来訪したい」と思いました。

○湯ったりえん 外湯に入って、身も心も大変リラックス出来ました。食事もちごを食べたことを忘れ、完食しました。

#### ☆佐渡旅行 7月24・25日

天候はあまり良くはありませんでしたが「大型フェリーに乗ったり、透視船に乗ったり」と初体験のことばかりで、楽しかった。また宿では、海の幸をたくさん食べて、佐渡おけさのおどりを教えてもらいま

した。スタッフの皆さま、旅行委員の方、大変ご苦労様でした。

☆バーベキュー 8月29日

「準備OK さあ始めましょう」という段階で雨が激しくなり、中止になってとても残念でした。来年に期待します。

☆花火大会 10月3日

子供のように皆が花火に夢中で、楽しかった。外の食事少し寒かったのですが、最高でした。

☆施設対抗バレーボール大会 9月25日

応援として参加したのですが、チームが1勝1敗に終わり、とても残念でした。来年に期待します。

☆心の健康を考えるつどい (in 上田) 10月24日

テーマとして、病気、障害を「のりこえる」から「どうつきあうか」というものでした。私が思ったことは、多くの人が病気と闘っているということです。

援護寮での生活は、行事が沢山あり、「和」とか「チームワーク」を保つには良いことだと思うようになりました。

また、誕生日会、ビデオ鑑賞など、楽しく生活にも張り合いが生まれています。朝に毎日清掃があり、きれいになっているのは気持ち良いです。

☆「若槻地区食生活改善推進協議会との調理実習と会食」 7月2日・11月11日

7月2日にかぼちゃとチーズの春巻き、11月11日おからのハンバーグを4人の主婦の皆さんと作りました。どちらもカロリー計算がなされていて、とてもヘルシーな料理でした。特に、春巻き料理は私も一緒に作らせてもらい、良い経験になりました。

## ～地域生活支援センター～

### 活動実績報告

職員 桜井 健太郎

平成15年度上半期を終えての、地域生活支援センター活動実績報告を申し上げます。

先ずこの4月にサテライト施設「スローステップ」が開設するという大きな出来事がありました。これは交流室の利用が増え、従前の8畳2間の空間では手狭となってきたことに加え、利用者各人の空間利用ニーズの多様化に対応すべく実現したものです。開設から半年を経過して、少しずつではありますが、皆さんにとっての「交流の場」として定着しつつあるように感じます。

併せて様々なプログラムや企画も始まりました。毎週火曜の木工教室、毎月末土曜開催の家族の日、週に1回の夕食会などです。これらもそれぞれ徐々に形になって参りましたが、これ迄のところはスタッフ

が下ごしらえしている部分が大きいですが、今後いかにして利用者の皆さんと共に空間を創りあげるか、活動を組み立て盛り上げていけるかが大きな課題であると感じております。

次に、支援活動実績に関してであります。この9月末時点で登録者数は75名となっております。私の認識している支援センターの3大機能であります①交流の場の提供、②相談支援機能、③地域交流のうち、総じてある程度の活動を行っておりますが、現在のところは「交流の場の提供」機能がメインとなっています。これからの課題としていかに②、③の機能を拡充していくか、が挙げられます。紙幅の都合上、

記せないことがあまりにも多くて残念ですが、よりよい支援センターづくりの為に皆様と共に精進して参りたいと思います。

## りんどうを利用して

K・H

今年の4月から利用しています。初めは緊張していましたが、慣れてきて、特に大谷さんには、五目の相手をして頂いて、ありがたく思っています。もちろん他のスタッフやボランティアの方にも、同様に感謝しています。五目の総成績はと言えば、大谷さんのみ、勝ち越せませんが、楽しく過ごしています。いろいろなメンバーもおりますが、気にしないようにして、過ごして行きたいと思います。

### ～通所授産施設～

#### 上半期活動状況

職員 市村 寧

今年、施設長をはじめ半数のスタッフが入れ替わり、スタッフの方も手探り状態といった中でのスタートでした。

6月にはもんぜんぶら座の中に障害者施設生産品コーナー「のんびり屋ララ」がオープンし、ボランティアの方々にお手伝いしていただきながら、雑巾・アクリルタワシ・人形（パジャマ・小物等が入ります）・ペン立てなどの自主製品作りにも力を入れて取り組んで来ました。また店番にも参加を始めました。目の前の食品コーナーは、大盛況にもかかわらず、こちらはというと、見てはくれるがなかなか売れず、展示コーナーと化し、時間だけが過ぎて行きました。そんな中でも、まずはお客様一人一人に「いらっしゃいませ」の声をかけることから始め、やっとのことで売れたときの喜びが、皆さんの自信へとつながっているように思いました。

8月からは、「自分たちの施設は自分たちで考えよう」ということで、およそ月1回のペースで利用者ミーティングを始めました。「自分たちにとって通所授産施設とは」といったテーマなどで、皆さんそれぞれに意見を出し合ってもらいました。始めはなかなか意見が出ないのではと思っていましたが、こちらがハッとさせられる意見も出て、今までは機会があまりなかっただけで、心の中では皆さん自分の考えというものもしっかりもっているということを感じさせられました。

9月は19・20日に北志賀の熊の湯温泉に一泊二日の宿泊旅行は総勢23名で行って来ました。中野市りんごの木共同作業所を見学したり、志賀では池めぐりをしたり、横手山を散策したりと自然を満喫しました。また夜にはキャンプファイヤーでおおいに盛り上がりました。

#### 通所授産施設を利用して

K・Y

私がライフサポートりんどうの通所授産施設を使用するようになったきっかけは、主治医に社会復帰の為のステップアップになると言われ私も同じ様に考えた為です。

今、私は、靴下作業を通じて単純作業に耐える忍耐力をつけ、喫茶では調理と接客、片付け方を学んでいます。また、この他にも、地域の情報誌の配布、自主製品の製作を通じて地域とのつながりを感じています。しかし時給百円前後の工賃という現実を考えると、お金を稼ぐことの難しさを痛感しています。

また、私は、ここの施設のメンバーと作業以外にもソフトバレーなどの行事を通じて、できるだけ多くの人と交流して、私の最大の欠点であるコミュニケーション不足を克服すると共に、色々な作業を経験して自分自身に自信をつけて、一日も早く社会復帰ができるように努力していきたいと思います。

## ～とくまの家～

### 二年目の生活

とくまの家 富岡 由紀子

「とくまの家」での生活も二年目となりました。今年度は共同住居からグループホームとなり、地域の皆様に支えていただきながら日々奮闘中と言ったところです。

主な行事としては城山公園の花見、誕生会、カラオケ、暑気払い。地域参加として地区清掃及び講演会等への参加。家族交流では吉沢さん宅での畑作業がありました。昨年度はスタッフ中心に生活を進めてしまう事が多かったように思いますが、今年度はできるだけメンバーの方を中心に考え生活しました。ミーティングの時間を大切に、行事等の計画や日用品の金銭管理も一緒に関わりながらメンバーの方におまかせしました。負担に感じる事もあるようですが、自分たちでやってみる事で生活感を肌で感じてほしいと思っています。

生活を共にする時間が長くなる事でお互いの事がよく見えるようになってきています。そんな中で自己を振り返り、相手を理解していく事も今後の課題ではないかと思っています。「とくまの家」でも生活を通して、私を含め、それぞれの方のプラスになるよう努力していきたいと思っています。そうは言ってもまだまだ駆け出しです。これからも温かい目で支えていただけると幸いです。

### とくまの家二年目になって

A・Y

私は「とくまの家」のメンバーの一人です。ライフサポートりんどうの援護寮から移って生活の大変さ、生きることの大変さを感じながら、同じ住居に住んでいる仲間とのコミュニケーションの難しさを実感しています。

私は「とくまの家」での生活に疲れると実家に帰って気分転換を図っていますが、周りの人たちは私よりともしっかりしていて尊敬してしまいます。また世話人の富岡さんも、メンバー一人一人の個性を大切にしながら、悩みがあると親身になってきてくれるとてもやさしい人です。落ち込んでいるととても心配してくれて夜、「とくまの家」にとまる事もあります。

しかし、あまりだらしない事をするとうるさくしかってくれる人でもあります。それと電気料を計る個メーターが個人個人の部屋の前にできました。私はみんなより多く使ってしまうので節約するのが大変です。